

## 8 省市経済工作座談会

田中 修

### はじめに

6月6日、李克強総理は北京市長、河北省・山西省・黒竜江省・江蘇省・浙江省・広東省・四川省の省長を中南海に召集し、8省市経済工作座談会を開催した。本稿では、会議における李克強総理の発言の概要を紹介する。

現在、わが国の経済運営は総体として平穏であり、経済成長・都市の新規雇用増・物価総水準等はなお合理的区間にある。しかし、経済発展は安定の中に憂いがあり、下振れ圧力が依然かなり大きく、リスクと試練は軽視できず、各地域の発展はアンバランスであり、ある方面では問題が比較的際立っていることをも見て取らねばならない<sup>1</sup>。

発展という第1の重要任務にしっかりと取り組み、冷静さを保ち自信を堅固にするのみならず、転ばぬ先の杖により、主体的に行動しなければならない。

中国はなおも発展途上国であり、我々は依然長期にわたって社会主義初級段階にあることをいつも忘れてはならない。中国のような13億の人口を抱える大国にとって、発展は一切の問題を解決する基礎・カギである。

「GDPだけで英雄を論ぜず、片面的にGDPを追求しない」と我々は言ってきたが、これは決して経済発展の合理的な速度が不要であるということではない。今年の経済運営・発展の主要任務と予期指標は、中央経済工作会議と「政府活動報告」が確定したものであり、しかも全人代の表決を得て法的効力を備えている。全党上下・各レベルの政府はいずれも、各自の職責を負担し、中央と地方の「2つの積極性」を更に好く発揮させ、今年制定した経済社会発展の各指標の順調な達成を確保しなければならない。

昨年以來、我々は一連の行政審査・許認可制度改革を推進し、権力のレントシーキングの余地を極大まで減らし、市場の活力を大いに奮い立たせた。その目的の1つは、役人の職権乱用を排除するためである。しかし、役人の職権乱用の排除は、決して役人がこれにより「何もしなくていい」ということを意味するものではない。もしこう理解したならば、大変な誤解である。古人も「任官したからには、民を幸せにする」<sup>2</sup>と言っているではないか！

---

<sup>1</sup> ゴチックは筆者。

<sup>2</sup> 原文は、北宋時代の政治家である蘇東坡の「為官一任、造福一方」。彼は杭州で5年間官職に就いていた際、善行を行ったとされる。

政府は「強い刺激策」を実施しない。中国経済は健全に発展しなければならない。すなわち、コントロールの考え方を刷新し、精確に力を発揮し、方向を定めてコントロールしなければならない。政府は施策の乗数効果をうまく運用するだけでなく、資源配分における市場の決定的役割を更に好く発揮させなければならない。現在、多くの措置が実体経済の困難な局面を確実に改善し、社会の予想を安定化させている。各レベルの政府は、安定成長・改革促進・構造調整・民生優遇を統一的に企画するなかで敢えて任を担い、堅塁攻略に勇気を奮い、難題をしっかりと解決しなければならない。

現場で公務を遂行するに際して、関連する責任者は、問題解決のタイムスケジュール表を迅速に打ち出さなければならない。

安定成長・改革促進・構造調整は、いずれも民生改善に焦点を合わせなければならない。困難な際に温かい手を差し伸べるような事業を多く実施し、年末には「内容を伴い、数字を伴う」民生の成績表が上がってくることを保証しなければならない。

国務院は、近日監査グループを派遣し、政策実施プロセスの最初の段階と最後の段階を監査する。この監査に際しては、「第三者による評価」と「社会による評価」等の方式を導入し、部・委員会も地方政府も監査し、中南海の各政策措置が完全実施されているかどうかを監査する。施策が不十分な者については、厳格に問責を行う。

既往の成功経験からして、中国経済はやればできる。これが中国経済に対する私の自信の所在でもある。私がただ 1 つ心配しているのは、我々の現在の政策が既に実施されているかどうかだ。諸君が政策実施面で動かず、カギとなる問題について主体的にしっかりと取り組まないならば、経済・社会の発展目標は自ずと実現不可能となる。

過去 30 年、中国経済が得た成果を総括すれば、党・政府が歴史に順応して正確に政策決定を行ったのみならず、同時にその成果は我々が誇るべき勤勉な人民に帰させなければならない。

庶民はずっと勤勉に奮闘しているのに、幹部たるものが不作為であってはならない！各レベルの党委員会・政府は、責任意識・全局的意識をもたなければならない。党中央・国務院の各措置が、「文件を回覧して終わり」ということがあってはならず、断固として実施しなければならない！

経済社会発展の主要目標任務を達成することは、わが国の各事業の発展の基礎を保證することになる。今年には既に半分が過ぎているが、各レベルの政府とりわけ諸君ら 1 省の長は、責任意識・大局的意識をもち、さらには緊迫感をもたなければならない。我々は上下心を一つにして、今年の上半期の成績が非凡なものとなることを勝ち取り、下半期はさらに好成績を生み出す。来年の全人代において、人民にも歴史に対しても、合格答案を提出する。

(6月11日記)